

# ようかい となりの妖怪



## てんじょうねこ

さむ よる てんじょう こえ  
寒い夜、天井から「にやあ」と声がか  
き 聞こえます。

びっくりして上を見ます。

ねこ わたし み  
猫たちが私を見て、また  
「にやあ」。

いちどうえ み ねこ  
もう一度上を見ます。もう猫はいませ  
ん。

ようかい  
「てんじょうねこ」という妖怪です。

## うきわぼうず

あつ なつ ひ あめ  
暑い夏の日。雨がたくさん降って、  
こうずい  
洪水になりました。

いそが  
まちのひとたちは、とても忙しいで  
す。

ひとり みず なか  
「うきわぼうず」は一人だけ水の中  
で、うきわで泳いでいます。

い  
「すずーい、すずーい」と言っています。

い  
「とてもたのしい」と言っています。

ひと  
「うきわぼうず」を見て、まちの人た  
ちもたのしいです。







## おちやにこおり

あつ なつ よる だいどころ ちい ちい おとこ こ  
暑い夏の夜、台所に小さい男の子が  
た 立っています。

わたし み 私を見て「おちやにこおり、おちや  
にこおり」と言いました。

ちい 小さいコップを持っています。

ちや こおり い お茶と氷を入れると、いなくなりま  
した。

## やぬきのおつ

ふゆ 冬よるの夜、「やぬきのおつ、やぬきのおつ」という声こえが聞きこえます。

「おやつをいください」と言こえっている声です。

ちい 小ようかいさいこどもたちの妖怪おです。

※「おやつ」：le gouter







## かたたたき

だれかがお母さんの肩をトントンたたきます。

やさしい妖怪「かたたたき」は肩をトントンして、お母さんを起こしました。

起きてとなりを見ると、子どもがとても寒いです。

お母さんは子どもにも毛布をかけました。



## ありのみち

「手がいたい」と思<sup>おも</sup>って目<sup>め</sup>が覚<sup>さ</sup>めまし  
た。

た<sup>た</sup>くさんのあ<sup>あ</sup>りが私<sup>わたし</sup>の手<sup>て</sup>を食<sup>た</sup>べてい  
ます。

「あ<sup>あ</sup>りのみち」とい<sup>い</sup>う妖<sup>よう</sup>怪<sup>かい</sup>が、あ<sup>あ</sup>りた  
ち<sup>い</sup>に「こ<sup>こ</sup>の手<sup>て</sup>を食<sup>た</sup>べてく<sup>く</sup>だ<sup>だ</sup>さい」と言  
ったか<sup>か</sup>らで<sup>で</sup>す。





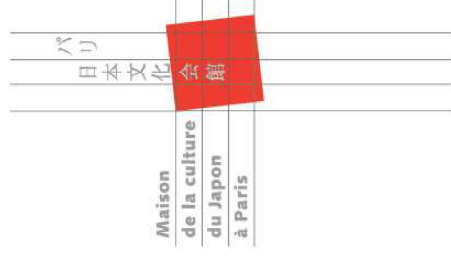
# ようかい となりの妖怪

2024年9月1日発行

編著：三浦多佳史

挿絵：中川歩美

監修：MCJP ぼくよむ文庫制作チーム



国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部